

## 海外安全対策情報（2018年1月～3月：ナミビア）

### 1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）当地はアフリカの中では比較的安全と言われているが、金品目的の軽犯罪は恒常的に発生しており、邦人旅行者が被害者となる事件も発生している。最新の犯罪統計（安全保障省統計：2014年～2016年）によると、首都ウィントフックが位置するコマス州における犯罪発生件数はナミビア全体の約4割となる。首都ウィントフックにおける犯罪は主に住居侵入、暴行、盗難、車上荒らし、車上強盗であり、犯行集団は首都ウィントフックの貧困層居住地域（カタトゥーラ地区）に存在する。犯行集団の多くは貧困層の素人集団であり、プロによる犯行は少ない。貧困層居住地区にはナミビア伝統料理を提供する観光客で賑わうマーケットが存在し、昨年、日中に邦人が路上強盗に遭う被害が発生している。

（2）当地の失業率は、2014年の28.1%から2016年は34%と近年増加傾向にあり、特に若い世代の失業率は2016年に37.8%と近隣国と比べて非常に高く、それに伴い若年層による金銭目的の一般犯罪が増加傾向にある。標的となりやすい物はカメラや携帯電話等の闇市場で容易に換金できる電子機器である。当地安全保障省の犯罪統計の数値によると、携帯電話の盗難被害発生件数は、2014年の4,446件から2016年は6,075件と、過去2年間で27%の増加を示している。（参考：近隣国失業率 南アフリカ26.7%（2017年）、アンゴラ26%（2014年）、モザンビーク24.37%（2016年）、ボツワナ17.6%（2016年）、ザンビア7.53%（2016年）、ジンバブエ5.09%（2016年））

（3）環境・観光省のデータによると、当地を訪れる外国人旅行者数は、2015年の1,519,618人から2016年は1,574,148人と前年比3.6%増と増加傾向にある。それに伴い、外国人旅行者が被害者となる犯罪も増加傾向にあり、例年外国人旅行者が多数訪れるスワコップムントとウォルビスベイを管轄するエロンゴ州の犯罪発生率は、2014年から2016年で12%増加している。邦人旅行者数についても2015年の2,192人から2016年は3,957人と前年と比べて44%増加している。なお、邦人の旅券盗難被害は2016年の6件から2017年の9件と前年と比べて33%増加しており、今年に入ってから2件（1月に1件、2月に1件）の邦人旅行者に対する盗難・強盗被害が発生している。

（4）当地の銃器を使用した強盗は全体の強盗事件の内24%、銃器を使用した殺人事件は全体の殺人事件の14%である。銃器に関連した事件は最新の犯罪統計上ほぼ横ばいであるが、銃器所持者の管理不十分による銃器紛失・盗難件数により、銃器盗難件数は増加傾向にあり、2016年に過去最高の年間250件を越えている。また、近年、体感治安の悪化と警察への不信感により、国民の自己防衛・危機管理意識が向上していることから、護身用の銃を所持する者が増え、銃器のライセンス取得者は毎年

6,000~7,000人のペースで増加している。今年3月下旬には首都ウィントフックにおいて、運転中のトラブルにより大学生が銃で殺害される事件も発生している。

## 2 外国人に対する犯罪の事例

(1) 1月4日、午前10時頃、我が方大使館から東へ約300km、ウォルビスベイの銀行前駐車場で、邦人旅行者2名に対する盗難事件が発生。邦人旅行者1名が外貨両替の可否を銀行内で確認中、犯行集団の内1名が駐車場で待機していたもう1名の邦人旅行者にタイヤがパンクしていると告げて注意をそらし、共犯者らが未施錠状態の後方ドアを開け、後部座席においてあったバッグを持ち去った。被害はバッグの中に入っていた邦人旅行者2名の旅券、約6,500USD、約40,000円、複数枚のクレジットカード、携帯電話、免許証等。

(2) 1月8日、午後2時30分頃、我が方大使館から西へ約2km、アウスパンプラッツのタル・ストリートの路上設置ATMにて、オランダ人旅行者に対する強盗被害が発生。3人組の犯行集団は拳銃を64才のオランダ人旅行者に突きつけ、ATMから現金を引き出すよう要求。犯行集団は被害者男性が現金17,800ナミビアドル（日本円約178,000円）を引き出した後、キャッシュカードと現金17,800ナミビアドルを強奪した。犯行集団は後に警察に逮捕されたが、キャッシュカードと現金は回収できていない。

(3) 1月15日、午後6時頃、我が方大使館から西へ約400km、ヘンティスベイからウイスへ向かう途中の道路で、ドイツ人旅行者が運転する車が横転する交通事故が発生。運転手を含む3名のドイツ人旅行者がケガを負い、最寄りの病院へ搬送された。

(4) 2月9日、午後5時頃、我が方大使館から西へ約3km、インデペンデンスアベニュー通りのNed銀行ATMにて、韓国人旅行者2名に対する路上強盗被害が発生。韓国人旅行者2名は路上に車を止め、ATMにて現金を引き出した後、犯行集団からパーキングチケット代を要求された。韓国人旅行者2名が犯行集団の要求内容を確認していると、犯行集団は韓国人旅行者2名に突然襲いかかり、現金55,000ナミビアドル（約550,000円）を強奪した。

(5) 2月18日、午後3時頃、我が方大使館から西へ約4km、シンプトン・ストリートの路上、タクシー車中で18才の邦人旅行者に対する強盗被害が発生。邦人旅行者は路上で後部座席に1名が乗車中の「乗合いタクシー」を拾い、目的地であるロッジへ向かうよう運転手へ指示。タクシーは暫く走行した後、人気の無いところで停車し、邦人旅行者の所持していたバッグを差し出すよう要求。邦人旅行者は運転手の要求を理解できず混乱していたところ、後部座席の乗客を装った共犯者に背後から首を絞められ、運転手に顔面を数発殴打された。邦人旅行者は事態を把握し、すぐさま所持していたバッグを差し出し、事件現場で強制的に下車させられた。邦人旅行者は顔を殴られた際に鼻から出血。被害はバッグの中に入っていた現金、クレジットカード

ド。事件発生から約1時間後、盗難されたクレジットカードから約90,000円が引き出されていた。

(6) 2月22日、午前10時頃、我が方大使館から西へ約6kmのホッチランドパーク地区の路上で、ボツワナ人旅行者の女性に対する強盗事件が発生。ボツワナ人女性は路上で後部座席に2名が乗車していた「乗合いタクシー」を拾い、パイオニアーズパーク地区へ向かうよう指示。タクシーは暫く走行した後、人気の無いホッチランドパーク地区で停車し、乗客を装った共犯者と運転手はボツワナ人旅行者のハンドバッグを差し出すよう要求。ボツワナ人旅行者は犯行集団の要求に従いハンドバッグを差し出した後、ハンドバッグの中の旅券を返してもらうよう懇願したところ、タクシードライバーは所持していたナイフでボツワナ人旅行者の右肩を刺し、車外へ放り出した。ボツワナ人旅行者はボツワナ大使館へ連絡、連絡を受けたボツワナ大警備担当者と市警察は現場へ臨場、女性のケガの具合を確認した後、最寄りの病院へ搬送した。

(7) 2月28日、午後、我が方大使館から北西へ約900kmのブワブワタ国立公園の路上で、ナミビア警察の野生動物保護班によるドイツ人旅行者2名に対する発砲事件が発生。2名のドイツ人旅行者はレンタカーで移動中に野生動物保護地区に侵入したため、巡回中の私服警戒中の警察官2名に止まるよう指示された。2名のドイツ人旅行者は私服警察官を強盗と勘違いし逃走したため、警察官はドイツ人旅行者が運転する車に向け数発発砲し、後部座席の窓が割れた。ケガ人は確認されていない。

(8) 3月15日、午後6時頃、我が方大使館から西へ約2kmの大型ショッピングセンター（マルワモール）内のATMで、当館邦人職員に対するATM詐欺未遂事件が発生。邦人職員が業務終了後にショッピングセンター内のATMで現金を引き出した後、身なりの良い男にATMに問題が発生したため一度ATMまで戻ってほしいと依頼された。邦人職員は警戒を保ちつつ、男の指示に従いATMへ向かったが、邦人職員がキャッシュカードを挿入後、暗証番号を要求されたため拒否。キャッシュカードはATMに飲み込まれたが、事件に巻き込まれる恐れがあると判断しその場を離れた。同邦人職員が利用するATMはショッピングセンターの中の比較的安全な場所であったが、犯行当時常駐警備員はおらず、買い物客は少なかった。

(9) 3月16日、午前3時頃、我が方大使館から南へ約500mの、当館館員が居住しているコンパウンドハウスの敷地内で車上荒らし未遂が発生。事件発生時間の午前3時頃、コンパウンドハウスに居住している救急隊員の男性が帰宅したところ、1人の男がスクリュードライバーで敷地内に駐車中の車のドアをこじ開けようとしているのを発見した。救急隊員の男性がハイビームで威嚇すると犯人の男は逃走した。

(10) 3月19日、午後4時頃、我が方大使館から西へ約1.5mのパラメントガーデ

ン付近で、2名のアメリカ人旅行者夫妻に対する路上強盗事件が発生。夫妻はレンタカーを借り首都ウィントフックを観光した後、パーラメントガーデン付近に停車し休憩していたところ、ナイフを所持した3人組の男に車の鍵を要求された。夫である男性は要求を拒否し、ナイフで脅され掴みかかられたが、怯むことなく抵抗したため3人組の男は逃走。男性はもみ合った際に額を割る軽傷を負った。

### 3 薬物・危険ドラッグについて

危険ドラッグについて、当国がスワジランドやレソトからのマリファナや、ブラジル及びアンゴラからの麻薬（主にコカイン）の経由地として利用されている。ナミビア人によるドラッグ自体の使用率はそれほど高くないものの、一部バーや住居では比較的安価に手に入るマリファナが主に使用されていると言われている。

### 4 交通事故

（1）最新の交通事故データ（自動車事故基金統計：2016年）によると、当地では年間4134件の交通事故が発生しており、死傷者数は7526名、内、負傷者6795名、死者は731名となっている。全体の交通事故発生率は金曜日が53%と週末になると事故が多発する傾向にあり、交通事故発生時間帯は午後4時～午後11時59分が46%となる。例年多くの観光客が訪れるエロンゴ州においては交通事故の増加も著しく、当地安全保障省の統計によると、2014年の269件以下の報告件数に対し、2015年は365件、2016年は371件と過去2年間で27%以上の増加を示している。

（2）当地で発生する交通事故の要因は、スピードの出し過ぎ、飲酒運転、野生動物の急な飛び出し、道路の整備状態等が挙げられる。また、直線で片側一車線という道路も要因のひとつとなっており、高齢者や初心者が車の流れを読まずにゆっくり運転している場合や幹線道路で大型トラックが低速で走っている場合、或いは前方を良く確認せず無謀に追い越すなどの運転による事故も多い。

### 5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

### 6 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

### 7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

### 8 日本人安全対策のためにとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○1月25日付、在ナミビア大使館からの注意喚起

○2月27日付, 在留邦人及び旅行者の皆様へ

○3月6日付, リステリアに汚染された食品に関する注意喚起 (了)